

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 県営林提案型施業モデル事業費負担金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 治山課 水源林保全係 電話番号：058-272-1111 (内 3165)

E-mail：c11519@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 19,236 千円 (前年度予算額：22,902 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	22,902	0	0	0	517	0	0	0	22,385
要求額	19,236	0	0	0	504	0	0	0	18,732
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・明治 39 年以降平成 18 年までに森林資源の培養と県土保全を図り県の基本財産を造成するために 22 箇所、約 4,000ha の山林を取得した。
- ・明治 41 年以降昭和 55 年までに土地所有者との間に締結した収益を分けあう分収契約に基づき、120 箇所約 3,900ha の造林を実施した。
- ・県営林の森林資源が充実し木材の利用可能な 8 齢級以上の森林面積 (人工林) が 98%以上を占めている。
- ・県営林では効率的な森林施業の実施と森林が持つ多面的な機能の発揮のため、5ヶ年の施業運営を明記した森林経営計画を策定し、計画的に施業を行う。

(2) 事業内容

- ・森林資源を有効活用するとともに、森林の整備を通して公益的機能の維持・発揮を図るため、県営林及び周辺森林を一体的に整備する。
- ・林業事業体から森林整備や木材生産に関する提案を受け、最も優れた提案をした林業事業体と森林施業基本協定 (6年間) を締結し、森林技術者の

新規雇用・育成・定着を図るとともに路網整備から木材生産までを一体的・効率的に実施する。

実施地区 継続：揖斐地区（H30～R5）
丹生川地区（H30～R5）
金山地区（H31～R6）
新規：久々野地区（R3～R8）

（３）県負担・補助率の考え方

・林業事業体が行う森林整備事業に対して国庫補助金を除いた残金を県が負担することにより事業を実施する。

負担率：県費 10／10

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	19,236	林業事業体への負担金
合計	19,236	

決定額の考え方

参考事項

（１）後年度の財政負担

6年間の協定に基づき債務負担を行う。

（２）事業主体及びその妥当性

事業主体：林業事業体

県の所有する県有林及び森林を地上権設定した県行造林において、より効率的な森林施業を行うため、プロポーザル方式により林業事業体から提案を受けるため。

事業評価調書

新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
木材生産及び森林の公益的機能の維持・増進のために間伐事業等を第10期県営林経営計画（平成31年度～令和5年度）に基づき実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値(見込み)	目標	達成率
間伐面積 (全体計画)	ha (H)	44.74ha (H31)	ha (R)	76.85ha (R2)	506.83ha (R5)	-
作業道開設	(H)	3,450m (H31)	(R)	5,528m (R2)	11,860m (R5)	-

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
地域森林との一体化（団地化）による効率的な森林整備・木材生産のコスト縮減を図るため、林業事業体に対して負担した。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
間伐面積（提案型施業分）：令和2年度（見込） 32.11ha
作業道開設（提案型施業）：令和2年度（見込） 2,078m

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	森林の公益的機能の維持・増進のため、健全な育成と社会的要請に対応した適正な県営林の経営・管理が必要である。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	第10期県営林経営計画に基づき、計画的に実施している。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	林業事業者による効率的な森林施業を促進している。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 モデル事業として実施しているため、一定の期間における事業の検証が必要である。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 適正な県営林の経営・管理を行い、地域森林との一体化による効率的な森林整備・木材生産のコスト縮減を推進するとともに、森林技術者の新規雇用のフィールドとして提供する。
--